

西宮 えびす

えびす

平成10年
夏号

▼四季の境内 (リンゴ並木の苗木)



◎編集室から

阪神大震災の犠牲者追悼と街の復興を願い、西宮市での犠牲者数と同じ1146本のリンゴの木の植樹をめざす「西宮リンゴ並木後援会」が兵庫県の震災復興特別賞を受賞されました。当社の境内で育てられている220本の苗木にも小さな実がついてきました。産地や種類の違うリンゴを育てるのは難しいそうで、日々の水やりや手入れなど大変な苦労をされておられます。行政の協力のもとで、一日も早いリンゴ並木の完成を願います。

えびす信仰について新しい角度からの研究に取り組もうとされている大手前女子大学長の米山俊直先生とテレビでおなじみの漫画家蛭子能取さんにお話しをお伺いしました。時代を超えて魅力をもち続ける「えびす」に込められた複合性とは何か、たいへん興味のひかれる提言だと思います。

(英)

西宮えびす平成10年夏号 (通巻第9号)

平成10年6月1日発行

発行/西宮神社

T 662-0974 西宮市社家町1-17

編集/講務課広報

デザイン/OHTAファーゼン

写真提供/東京乾電池事務所

西宮リンゴ並木後援会

倉岳町観光協会

浜島町役場

佐賀市役所

美保神社

神田明神

今宮戎神社

中津川西宮神社

新湊西宮神社

興賢神社

大前神社

お知らせ

西宮神社のおもな祭事・行事

◆講社太々神楽祭

◎五月二日～十日



一日・西宮郷酔友会
二日・八馬家、三日・
大阪第1招福組、四日・
日供講社、五日・西宮
太々講社、六日・諸国
講社、十日・本えびす
講社の太々神楽祭が行われ、氏子をはじめ全国からの崇
敬者の参集のもと、神楽や舞楽が奉納されます。

◆おこしや祭り

◎六月十四日



居眠りをされたえ
びす様のお尻をひね
ったことから「尻ひね
り祭り」とも呼ばれ
ています。びわ籠を
手にした「びわ娘」が
神輿のお供をし、御
旅所でびわを配ります。関西の夏祭りのさきがけとして
地元ではこの日から浴衣を着初めます。

◆夏越しの大祓

◎六月三十日



六月の大祓式は「夏越しの
大祓」といわれ、体力の減退
する夏を越すために欠くこ
とのできないものです。人形
でお祓いをした後、直径約四
メートルの大茅の輪くぐりが
行われます。人形をお送りい
ただければ、お祓いをし、撒供
として茅の輪をお授けします。

◆夏祭り

◎七月二十日



午前の祭典と暑気を払う
湯立神楽に引き続き、夕刻に
はえびす万灯籠点灯式が行
われ、境内外の約三百基の灯
籠に灯が入れます。拝殿
前の特設舞台では、舞楽が奉
納され、えびす提灯が特別に
授与されます。

◆宮水まつり

◎十月三日・四日



灘の酒造り
に欠くことので
きない「宮水」
への感謝と市内
の酒造会社の
共同銘柄「えび
す」の酒の
醸造祈願祭が行われます。昨年からは始まった「酒蔵ルネ
サンス」も会場を境内に移して開催されます。

◆観月祭

◎十月五日



中秋の名月にあたる五日
夕刻、本殿前舞台で祭典に続
いて女人舞楽が奉納され、雅
楽の調べに合わせてあやか
な舞いが披露されます。
祭典の後、西宮神社会館に
会場を移し料亭「播半」特製
のお見料理の晩餐会が開
催されます。

室町時代以降、えびす様が
福の神の代表となり、そのご神徳が
人形操りや謡曲、狂言などの芸能を通して
広まってきました。

江戸時代に幕府から透かしの入った御神彫札の版權を得て、
今日に至るまで全国に頒布しています。



平成10年
夏号

西宮神社 / 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17
TEL/0798-33-0321 FAX/0798-33-5355

えびす信仰の 根源を探る



聞き手／西宮神社宮司 吉井 良隆

時代を越えて庶民の心をひきつける「えびす様」の歴史を辿ることで、西宮の地域性や日本人の民族性を明らかにできるのではないかと。そのような願いを込めて「えびす信仰」の総合的な研究に取り組もうとされている、大手前女子大学長の米山俊直さんに伺いました。

◆阪神間を上品文化の拠点に

宮司／西宮の大手前女子大学長に就任され、お感じになられたことはありますか。

米山／昨年四月にこちらに来ましたが、京都の大学と阪神間の大学とは、雰囲気や差を感じます。西宮・芦屋あたりには、谷崎文学の「細雪」に見られるような、京都の公家文化とはまた違った感じの上品さがあります。

関西の上層文化は、西鶴や近松の文化を育ててきましたし、個人の教養も高かったようです。もとは大阪の町人から興ったものですが、仕事場から離れて阪神間に居を構えた実業家や灘の酒屋さんたちによって築かれてきた文化といえます。

この伝統を継承して阪神間を上品文化の拠点にしていくなめの活動を考えています。その一環として、西宮から全国へ広まっていた「えびす信仰」の研究に興味をもちました。

◆なぜの多いえびす様

宮司／タイを抱えていらっしゃるえびす様は、漁業や商売の神様として広く信仰されていますが、時代や所によっては、さまざまな信仰形態をとってきたようです。

米山／世の中のはやりすたりは激しいが、いつまでも変わらないものもあります。消えるのが惜しいという観点だけでなく、何が変わり、何が変わらないのかを押さえていくことでえびす信仰の本質を探ろうと思っています。

従来の都市の祭礼調査では、社会文化の側面から祭りを通して、その町の様子を見ようとしてきましたが、えびす信仰の場合は時代時代の信仰のありかたを検討していかなければなりません。漂着神や不具の神様としての性格、えびす信仰を広めた傀儡師など移動芸能者との関連、道教など他の宗教からの影響等、現在の信仰の在り方になるまでにさまざまな要素が複合して、多くの人々の心をひきつけてきたと考えられます。

これらのなぞを広い見地からひとつひとつ解きほぐすことにより、日本人の心や意識の一端を解明し、次の時代を開く鍵とすることができればと思っています。

宮司／素晴らしい研究成果を期待しています。

平成十年春から
調査開始

「西宮神社と

エビス信仰の総合的研究」

平成九年四月、西宮市の大手前女子大学に米山学長が就任したことをきっかけにさまざまな分野の研究者が顔をそろえ、西宮神社とえびす信仰についての研究が開始された。研究タイトルは「西宮神社とエビス信仰の総合的研究」。米山学長が座長となり、関西学院大学、甲南大学、滋賀県立大学から宗教学、日本中世史、情報人

類学などの研究者や評論家が参加

西宮在住の経験があるパリ大学のフランス人地理学者も加わる予定で、腰をすえた国際共同研究を目指している。地元西宮出身の深見東州氏が主宰する神道国際学会が資金的な援助を行い、三年間をめどに「十日えびす」をはじめ、神事や行事のフィールドワークが実施される予定。

えびす様に関する研究でこのようなチームによる総合研究が行われるのは初めての試みで、研究成果に期待が寄せられている。またその前調査として、甲南大学社会学部森田教授の映像人類学教室により今年の十日えびす大祭や開門神事福男選びの模様が記録撮影された。

◆アフリカから都市の祭礼研究へ

宮司／長年アフリカの研究をされていたようですが、どのようなきっかけで日本のお祭りにも興味をもたれたのですか。

米山／三十年間、アフリカ各地の儀礼の調査研究にあたってきました。これによってアフリカに共通する祭りの特徴が理解できただけではなく、祖先や自然を崇拜する習慣などは、日本とも似通っていることが分かってきて、おのずと日本の祭りにも関心が移ってきました。

京都にいと身近にお祭りに接することができます。都市文化を探る切り口としてお祭りは有効的です。祭りの時は、皆さん積極的に話をしてくれます。今でも祇園祭や天神祭の時などは、学生と一緒にフィールドワークを行い、祭りの時にしか手に入れることのできない情報を求めています。



米山 俊直(よねやま としなお)

文化人類学者、昭和5年生・奈良県出身。三重大学農学部から京都大学大学院時代に米・イリノイ大学に留学。甲南大学助教授、京都大学助教授、同大教授を経て現在同大名誉教授。平成9年大手前女子大学長に就任。著書に「文化人類学の考え方」、「日本人の仲間意識」、「祇園祭」、「天神祭」等多数。

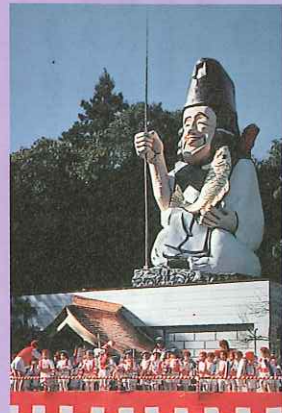


▲西宮大神宮古神札(長野県・館林家)
御神影札を年毎に貼り重ねておまつりしているところでは、年輪のように時代ごとの諸相をうかがうことができる。

全国のえびす像

① 栃木県真岡市大前神社

平成元年に作られた高さ20mの日本一大きいえびす像は、鯛ではなく大前神社の神様のお使いとされる金の鯉を抱いている。



② 三重県志摩郡宇氣比神社

1月20日のえびす祭礼にあわせ、高さ2mのえびす像を囲んで初笑いを行う。この像の鼻を削り大漁のお守りとする風習から「鼻欠け恵比須」と呼ばれている。



③ 熊本県天草郡倉岳町

鯛釣りの町のシンボルにと、平成2年に「ふるさと創生1億円事業」で作られた大理石の高さ10mのえびす像は、石像としては日本最大、漁民と船の安全を見守っている。



◀ 山形県・総宮神社

農村では、えびす様は田の神としてまつられ、10月20日には各家の神像に、魚が供えられる。手には釣竿ではなく、鎌を持っている。



◀ 新潟県・村上西宮神社

日本海に接する三面川の河口にあたり、鮭漁が盛んな地域。10月20日のえびす講には秋鮭が供えられる他、祝い膳にも鮭は欠かせない。



◀ 長野県・松本西宮恵比寿神社

松本講社西宮事務所として、信州一円に領布する本社よりの御神影札の取りまとめを行っている。



◀ 富山県・新湊西宮神社

4月20日の豊漁を祈願するぼんぼこ祭りでは、えびす様を乗せた船が海上渡御。船上で出羽修験の影響を受けた、ぼんぼこ舞を行う。



▲ 島根県・美保神社

鯛を抱えたえびす様の姿は、美保関で釣りをしていたという神話による。青柴垣神事、諸手船神事は国譲り神話に由来する古式神事。



◀ 佐賀県・佐賀恵比須神社

町の辻々に西宮大神宮と刻まれたびす石像が380余体もある。1月9日・10日の十日恵比須大祭には小学生のえびす像のスケッチが展示される。



▲ 福岡県・十日恵比須神社

1月8日～11日の十日恵比須大祭では、商いの元金として一文銭を借りる「えびす銭」、博多の芸妓衆の「かち詣り」が行われる。

昭和8年「神社明細帳」掲載神社数(境内社・摂末社を除く)



▲ 群馬県・桐生西宮神社

1901年西宮より勧請された蛭子神をまつ。11月19日・20日のえびす講は、縁起物の熊手などを求める参拝者で関東一の賑わいをみせる。



▲ 東京都・宝田恵比寿神社

1606年、江戸城内の宝田稲荷を日本橋に遷座した際、家康よりえびす像を授かる。10月20日の恵比寿神祭に開かれるべつたら市が有名。



◀ 静岡県・焼津西宮神社

1508年浅田久太夫が西宮より勧請。11月19日・20日に恵比寿講市が開かれ、各家では、口取が用意されくじ引きが行われる。



◀ 岐阜県・中津川西宮神社

1895年西宮より勧請。えびす町に鎮座し、東濃一社と称す。1月10日の十日えびすは、中津川の年中行事で最大の賑わいとなる。



▲ 京都府・恵美須神社

栄西禪師が建仁寺建立にあたってその鎮守としてまつ。都七福神巡りの一社で1月8日～12日の初えびすには、人気と呼ばれる縁起物がある。

◀ 大阪府・今宮戎神社

四天王寺の西に鎮まる市場の守護神から商売の神となる。1月9日～11日の十日戎には、宝恵駕籠行列が社参し、福娘が福笹を授与する。



全国に広がるえびす信仰

西 東

えびす様は、関西では、「えべっさん」、東海地方では「おいべっさん」、北陸地方では「おおべっさま」、関東以北では「おえびすさん」などと庶民から親しみをこめて呼ばれています。このえびす様をおまつりする神社は、全国に約三千五百社を数え、日本人の暮らしとともにあったえびす信仰の広がりをうかがわれています。



もともと漁民の神であったえびす様は都市では、市の発展と商業の発達により商業神となる一方、農村では山の神や田の神として農耕神ともなっています。えびす信仰は、えびす舞いや神楽などの芸能、えびす札の頒布、七福神信仰などにより全国に広まり、その地方その地方に根付いていますが、東海・北陸あたりを境に東西の特徴をみることが出来ます。

えびす様の祭礼日が、十日・二十日に多いのは、むかしの定期市との関係だといわれていますが、西では年の始めに祈願する1月や2月の「十日えびす」や「初えびす」が賑やかに行われるのに対し、東では10月や11月に感謝の気持ちを含めて行う「えびす講」や「誓文払」が盛んです。

また西の縁起物が笹や実用的な箕・さらえ熊手にシンプルな飾り付けをするのに対し、東では目の粗い熊手に派手な飾り付けをしたものが多いようです。

西日本と東日本の特徴

阪神タイガース必勝祈願

プロ野球セ・リーグ公式戦の開幕を前にした3月31日、阪神タイガースの監督・選手・コーチら約150人が今シーズンのリーグ優勝と健康を願って恒例の必勝祈願を行いました。



▲お詫いを受ける選手一同



▲優勝を祈願する吉田監督



▲祈願礼を受ける久万オーナー

トピックス

平成のえびす舞



▲昨年9月16日(於西宮神社会館)

西宮が文楽などの人形芝居発祥の地であることから結成された「西宮くぐつ座」が「えびす舞」を現代風にアレンジ、当社での初演を皮切りに各地で公演を重ねられています。

明石海峡大橋開通めでタイ展



4月5日の明石海峡大橋の開通を記念して、鯛についての特別展が7月7日まで神戸市立須磨海浜水族園で開かれ、えびす様と鯛についてのかかりなどが紹介されています。

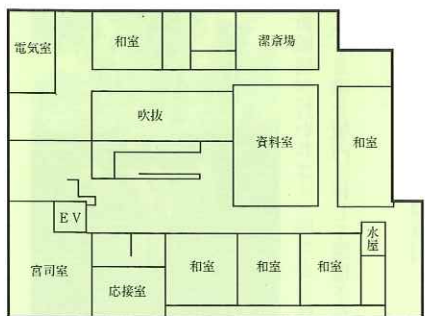
社務所改築工事



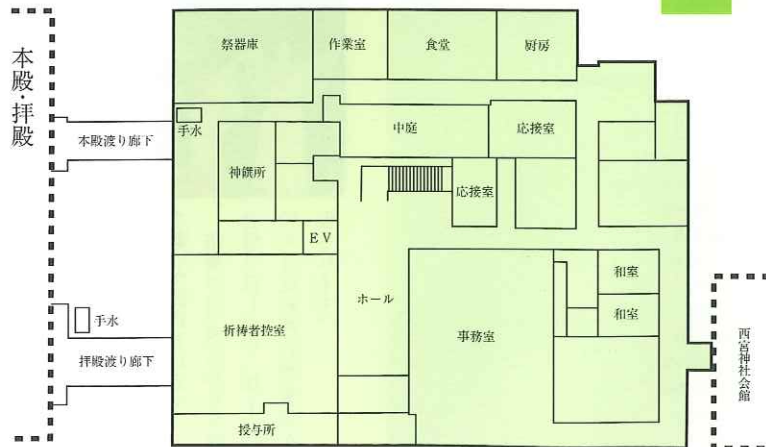
▲地鎮祭

阪神大震災で全壊をした、社務所の改築工事が十日えびす終了後の1月中旬からはじまり、2月5日地鎮祭が肅行されました。

新社務所は、地上2階建・延約千九百十㎡で1階には事務室や祈祷者の控え所、授与所など。2階は、団体参拝者の休憩所、資料室などを備えている他、最新のAVシステムやコンピュータ導入による映像や情報提供も計画されています。今年11月末に予定されているこの社務所の竣工により、当社の震災復興工事は、終了します。



▲2階(和室、応接室、資料室等)



▲1階(授与所、祈祷者控室、事務室等)

社務所平面図



蛭子神と事代主神

えびす様の「えびす」にあてられる、夷・戎・狄・胡などの字は荒々しい力強い神様という意味をもち、恵比寿や惠美須などは繁栄や幸福を意味する字を音にあてはめたものです。

日本・中国・インドの神様を集めた七福神の中で、えびす様は唯一日本出身ですが、古来の神話にはえびすという神名が出て来ません。これは、海から福がもたらされるという海浜の信仰が庶民の中で自然のうちに広まり、タイを抱えたえびす様のお姿になっていったからでしょう。

地方によっては、漁師が目隠しをして海に潜り、手に触った石をえびす神としてまつり、不漁であれば別の石に替えるという習俗が残されています。これは、海から来る神霊が豊漁をもたらすというえびす信仰の原点といえます。

現在、えびす様の神名は、蛭子(ヒコ)神または、(八重)事代主神であるとされています。これは、蛭子神が漂着してきたという伝説や事代主神が釣り好きであるという神話からいわれるようになってきたものです。

蛭子神は、伊弉那岐(イサナギ)と伊弉那美(イサナメ)の国生みにあたって女神から先に声をかけたために生まれた不具の御子で、三歳を経ても脚が立たず天磐機(アマノハネウチ)に載せて風のまにまに放ち棄てられたとあります。当社には漁師の網に掛かった

御神像をおまつりしていたところ、ある夜の夢に「我はえびす神なり。ここから西の方の宮地に鎮まりたい。」との神託があり案内したのが現在の社地だという伝承が残されています。

事代主神は、大国主神の御子で天照大神が国譲りの遣いを送った際に美保ヶ関に釣に出掛けていましたが、父の大国主神から回答を任された事代主神は、天照大神への恭順を誓い、海中の青柴垣の中へ隠れ去ったとあります。この伝承による青柴垣神事や諸手船神事が島根県的美保神社に伝えられています。

えびす様が蛭子神といわれるようになったのは鎌倉時代頃からで、海の荒神として恐れられていたえびす神に蛭子神の不具の性格が重なることで、庶民の福神となり室町時代には七福神に加えられました。七福神信仰が広まると、インドの大黒天と出雲の大国主神の音が共通することから習合し、その御子の事代主神が釣り好きであるこ

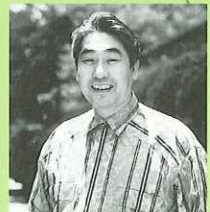
とからえびす様だといわれるようになってきました。

江戸時代の本居宣長「問答録」には、えびす様のもとには西宮であり、蛭子神として古くから信仰されているとありますが、明治維新に神社が国の管理となる際、不具の蛭子の名を敬遠して祭神名を事代主神としたえびす神社の例も多くみられます。



事代主神

蛭子神



漫画家 えびす よしかず 蛭子 能収

『自然体に生きる幸せ』私の名前は、蛭子と書いてエビスと読みます。小さい頃から「オイ、エビス」と呼ばれ、中学時代は「エビス、金貸せ」などと言われていたのですが、文字で書きますと蛭子ですから本当は読みにくいはずですが、それが幸いといえます。私の場合はテレビが文字より先に紹介してくれましたので、蛭子をエビスと呼ぶことが自然のうちに広まっています。

それは、全てに自然体で行こうと思っているとこがエビス様のムードに合っているのではないのでしょうか。これにあやかって「蛭子キャンブル教」と言って、私なりの幸せを呼び込む方法は「財布を持つてはいけません。お人好しは大成しません。朝型が成功します。」などと思いつくままに暮らしているのにも、名前そのものが皆さんに親しみを込めてまつられているエビス様のお蔭だと思っています。